

思春期を迎えた自閉症児の育児について、母として大切にしている事

浅間 牧子

浅間ペンギンABA教室 講師

【はじめに】カナリー型自閉症14歳の息子。様々な療育を試みた中、ABA（応用行動分析）と出会い実践中。就学猶予申請をして、小学校入学を一年間遅らせる。その後、公立小学校・中学校に母も毎日付き添うスクールシャドーをしながら、息子と共に成長の日々を過ごしている。

【療育を続けて】5歳の時点で、『重度自閉症の息子さんは、将来、自分のコンディションを相手に伝えるという意味での言葉を話せるようにはならない』との診断を受け、悩みながらも療育を続け10年。3歳から5歳の一番手がつけられない時の《The ZIHEIの王様》の彼とは、全く別な人間のように成長し、こつこつと積み重ねてきた療育が少しずつ繋がり形になってきている。しかし、自閉症が無くなった訳ではなく、行動やコミュニケーション面での社会生活上の困難を多く抱えている。

【思春期を迎えて～Bottom UpからTop Down、支援の方向転換～】六年生の就学相談時にIQ 35・四歳児相当との診断を受けた息子。第二次性徴が始まり、心身ともに急激な変化の渦中にある。身体つきも急に大人になり、背丈も腕力も母を上回っている。身体とは裏腹に、4歳児相当の認知の息子の問題行動と対峙する為に母として気を付けている事。Bottom Up⇒小学生の頃は、言語等の認知・学習面・操作性や運動面・身辺自立や社会性・協調性等、日常生活全般にオールマイティーにできるようにアプローチしたが、Top Down⇒年齢が上がるにつれて、何もかもをできるようにしていこうとするのではなく、得意な事、好きな事、楽しく自信を持てる事を一つでも二つでも見つけて伸ばしていき、『苦手な事』を克服するのではなく『苦手な事』と上手に付き合っていく為の別な手だて・補うツールを見つけていく。

【障害者差別解消法～合理的配慮～】視力が弱いならば、眼鏡をかけるように。聴力が弱いならば、補聴器をつけるように。足を傷めたら、車椅子を使うのと同じで。困っている時に、その人に合った必要な工夫ややり方を相手に伝えて、それを相手にしてもらおう合理的配慮を活用していきながら楽しく生活を設計していく。

【螺旋階段のような育児～自立に向けて】自分らしくマイペースで。笑顔で。沢山のドキドキを見つけて過ごしていく。螺旋階段とは、登り続けてもずっと同じ所を辿っているようで変化のない階段。でも、横から観るとほんの少しずつだけど、ちゃんと上っていつている。成人になるまでの11年。階段は上に向かって続いているから。25歳を目標に、自立に向けた計画を立てて、少しずつシェイピングしていく。今日のその小さな一段を大切に踏みしめて、感謝して生きる。

【大人になるまでのモラトリアムの今、大切だと感じる事】結果よりも、過程が大事。学ぶ姿勢に対する誠実さ、日々の努力の尊さ・子どもの頑張りを評価する事。一生懸命な《姿勢》が何にも勝り美しい。

【幸福について】幸福になる為に必要な事。それは、他人より、何が出来るか？ 他人より、何を持っているか？ではない。1日・1日を大事にして。誰かと比較するのではなく。自分で、自分自身を認めて、自分自身を好きになり、愛に満たされリスペクトされ、安心して過ごす毎日の繰り返し。これが『幸福な人生』を築き上げる。

自己肯定感・自尊心を育みたい。